

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	019670012		
法人名	日総ふれあいケアサービス株式会社		
事業所名	ふれあいの里グループホームわっかない絆 ユニット雅		
所在地	稚内市中央3丁目6番1号		
自己評価作成日	令和2年6月26日	評価結果市町村受理日	令和2年7月14日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/01/index.php?action_kouhyou_detail_022_kan=true&JigvosyoCd=0196700124-00&ServiceCd=320&Type=search
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 サンシャイン
所在地	札幌市中央区北5条西6丁目第2道通ビル9F
訪問調査日	令和2年7月6日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

稚内駅ビルにあり、同法人のサービス付き高齢者向け住宅が併設されており、連携を図って運営している。
公共交通機関の利用がしやすい立地状況であり、ご家族や知人なども訪問しやすく外出しやすい環境である。
馴染みの理容室や買い物外出を楽しみにされている入居者様も多くおり、地域や社会との繋がりを継続できるよう支援している。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

「ふれあいの里グループホームわっかない絆」は、JR稚内駅ビルキタカラの3階に立地しているグループホームで、近隣にはスーパーマーケットやコンビニエンスストア、公園などもあり生活の利便性に優れている。居間は明るく開放感のある造りで、大きな窓から海や山の景色を眺めながら四季の移り変わりを身近に感じることができる。管理者と職員は併設している同法人のサービス付き高齢者向け住宅の管理者や職員と協力関係を築きながら、より良い運営に向けて熱心に取り組んでいる。南極祭りなど地域のお祭りに出かけたり、事業所の敬老会にフラダンスのボランティアを招くなど積極的に地域住民と交流を深めている。昨年度から新たに認知症カフェ(オレンジカフェ)を定期的に開催し、近隣住民との交流につなげている。管理者やエリアマネージャーは各職員の意見や提案を聞き取り、ケアや運営に生かして働きやすい職場環境の整備に努めている。職員は行事やお便り作成などの役割を分担しながらコミュニケーションを深め、熱心に温かなケアに取り組んでいる。食事面では外食や出前、事業所内でのバイキングなど、楽しく食事できるように工夫している。職員はおやつ作りや季節の装飾制作など、利用者と一緒に色々なことに取り組みながら家庭的な落ち着いた生活を支えている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)		

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価(ユニット雅)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	職員と共に考えた理念がある。理念カードを携帯して業務にあたっている。	事業所理念に「慣れ親しんだ地域と関わりが待てるように支援します」という地域密着型サービスを意識した文言が含まれている。カンファレンスで理念を確認することもあるが、職員が常に意識できるように居間にも掲示したいと考えている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域のお祭りやイベントに参加している。お祭りについて使用する千羽鶴を作成して屋外に展示してもらっている。	事業所の敬老会にフラダンスのボランティアが訪れたり、認知症カフェに地域の高齢者や子供連れが参加して交流している。南極祭りに出かけ、ステージの催しや出店を楽しんでいる。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	認知症カフェの場を提供している。認知症ケア専門士を配置し、認知症ケアの理解を深めている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議にて地域で考えられる防災について検討している。	事業所の報告を中心に、認知症カフェの開催や特定処遇改善加算の新設について話をしている。敬老会の開催時は多くの家族が参加して意見交換している。全家族に会議案内と議事録を送付しているが、会議内容が分かる議事録とはいえない。	参加できない家族にも会議内容が分かるように報告内容や意見交換なども具体的に記録し、議事録を充実させるよう期待したい。
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	地域ケア会議や研修等に参加して地域包括支援センターや市の担当者との協力体制を築いている。	管理者は介護保険の更新手続きや認知症カフェ開催に向けての会議などで市役所を訪問している。保護課の担当者が来訪した時は利用者の様子を話しながら情報交換している。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	3要件に該当しない限りは身体拘束を行うわないことを家族に説明し、身体拘束を行わないケアを実践している。	「禁止の対象となる具体的な行為」を記載したマニュアルを整備し、禁止行為11項目や不適切な言葉遣いなどについて研修している。利用者が一人で外出しようとすることは殆ど無いが、様子を見ながら職員も同行して散歩などで気分転換している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止に係る資料を用いて研修会を開催している。また、日常的に業務内でも職員が互いに注意し合える環境をつくっている。		

ふれあいの里グループホームわっかない絆

自己評価	外部評価	項目	自己評価(ユニット雅)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	職員の理解は薄いですが、学ぶ機会を欲しているため今後学ぶ機会を設定する。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居の際の不安や疑問を確認し、ご理解いただけるよう丁寧な説明や対応を行っている。また、面会時や電話相談などを随時実施している。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関に意見箱を設置して、日頃よりご意見を頂戴できる体制を整えている。	家族の来訪時や電話で利用者の様子を伝え、意見や要望は職員連絡ノートに記載して情報を共有している。毎月「わっかない絆便り」を発行して利用者の健康状態や様子を伝えている。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員会議等で毎月のイベント開催など職員の意見を反映させた取り組みを実施している。	管理者は職員の意見や提案を反映させて業務の流れを変更したりケアに生かしている。職員と個別面談も実施している。職員は毎月の行事を交代で立案したり個別便りの作成を担当している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	定期的に管理者会議を開催し、労働時間の適正化や職場環境整備を実施している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	年間計画を立て、研修の機会を確保するなど努めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	他のGHとの研修会に参加している。また、地域ケア会議に参加し、ネットワーク作りを行っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価(ユニット雅)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居者が安心して生活できるように不安などの要望が無いが随時傾聴を行い、ケアプランに反映させている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	本人も含め家族が不安なこと要望などをうかがいながら関係づくりを行っている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居前に本人、家族が求めているサービスを見極められるように努めている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	可能な限りご本人の力を活用し、自立支援を行っている。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時や電話連絡にて近況報告している。また、月一回定期的にお便りを発送している。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	大切な人に会いに行ったり、なじみの美容室に通うなど関係性が途切れないよう支援している。	受診時に知人と会ったり、友人から年賀状や手紙が届く方もいる。家族と馴染みの美容室や外食に出かけることもある。法事や墓参りで親族と会う機会もある。職員と地域のお祭りに出かけている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	リビングで生活している際は、孤立しないように職員が寄り添い対応している。		

ふれあいの里グループホームわっかない絆

自己評価	外部評価	項目	自己評価(ユニット雅)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス契約が終了しても本人や家族との関係性が途切れないように必要に応じて対応をするよう努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人、家族にも意向を聞き取り入れて情報の把握に努めている。 直接表現できない入居者は、表情等を読み取り対応できるよう配慮している。	会話や表情、仕草などから思いや意向を把握している。利用開始時にセンター方式B-3シートを作成しているが、その後の変化に応じて追記や更新は行っていない。	利用者の趣味や嗜好などの現状が把握できるように変化に応じてB-3シートに追記したり、書類を定期的に更新するよう期待したい。
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人、家族にも意向を聞き取り、関係機関とも連携を図りながら対応している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	介護記録などを活用して職員間で情報共有を行うと共に通院時の状況や本人との会話などから状況把握を行っている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	月に1度のユニット会議を実施している。よりよく過ごしていただける取り組みなどを検討し、実行している。	計画作成担当者を中心に毎月の話し合いやアセスメントシートを基に、利用者の状況に応じて3か月～6か月で介護計画を作成している。家族の意向は面会時や電話で聞き取り、介護計画に反映させている。日々の様子はタブレットで記録している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護計画と連動した介護記録を作成し職員間で情報共有している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	出来る範囲で本人や家族などからニーズを吸い上げ対応できるよう心掛けている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	本人や家族、関係機関からの情報を基に入居者を支える地域資源を把握するよう努めている。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	受診対応先について、本人や家族からの希望を考慮し、入居前からのかかりつけ医を継続している。	利用者は全員かかりつけ医を継続して受診している。事業所で受診支援を行い、主治医と連携しながら適切な医療支援につなげている。受診状況はタブレットで分かりやすく管理している。	

ふれあいの里グループホームわっかない絆

自己評価	外部評価	項目	自己評価(ユニット雅)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	同法人施設が同建物内にあり、定期的かつ随時連携を図り対応できる体制を整えている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院の際には病院関係者と情報共有を行っている。医師から家族への説明の際は、家族了解のもと同席している。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化に向けて家族と話し合いが行われているが、終末期における対応や職員の技術習得など課題が残されている。	「重度化した場合の対応に係る指針」に沿って、常時医療行為が必要になった場合などは対応が難しいことを利用開始時に説明している。利用者の健康状態の変化に応じて適切な対応を学びながら、可能な限り事業所で対応していきたいと考えている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	実践力を十分に身につけているとは言えない。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期的避難訓練を実施している。	併設している法人施設と合同で夜間の地震から火災を想定した避難訓練などを年2回実施している。うち1回は消防署の協力を得ている。備蓄品や暖房器具も整備している。職員の救急救命訓練は今後も計画的に進めていきたいと考えている。	災害対策マニュアルを分かりやすく整理するよう期待したい。また、地震災害時のケア別の対応について話し合った記録もマニュアルに綴るよう期待したい。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとりの人格を尊重して本人にあった言葉かけや対応を行っている。また、研修会を定期的に行い、日頃のケアを振り返っている。	接遇に関する内部研修を年1回行っている。利用者の情報はタブレットを使用して管理しており、プライバシーに配慮している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人に想いや希望を聞き取り尊重できるよう取り組んでいる。直接的に表現ができない入居者からは、普段の仕草や会話などから読み取れるよう対応している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりのペースに合わせて支援しているが、職員側のペースになってしまう場合もある。職員間で状況の交換を行い、入居者の希望に即した支援が可能になるよう努めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	行きつけの理容室や訪問美容を利用している。また、化粧ができるなど身だしなみに注意を払っている。		

ふれあいの里グループホームわっかない絆

自己評価	外部評価	項目	自己評価(ユニット雅)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	下拵えや準備など入居者が行えることを共に実施している。行事等では、季節感が感じられるメニューなどにして楽しめる工夫を行っている。	法人作成の献立を使用している。事業所内でバイキングを開催したり、職員と一緒に作るジンギスカンなどイベントを通して食事を楽しむことができる。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量や水分量を記録し、把握している。また、記録を活用し、必要量を摂取できるよう対応している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後や起床時に一人ひとりの力に応じて口腔ケアを実施している。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	極カトイレを活用して排せつできるよう支援している。尿意や便意を認識できない方へは定期的に言葉かけを行い、トイレ誘導している。	排便チェックシートとタブレットを使用し、個々の情報に基づき、適切なタイミングでの声かけや誘導を行い失敗を少なくしている。入院時と比較し、退院後に排泄の自立に向けて改善した方もいる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排せつ確認や水分量の把握を行い、飲食物の工夫や運動への個々の働きかけを行っている。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	一応の曜日を決めているが、本人の希望等に即して柔軟に対応している。	週2回の入浴を日曜日以外で支援している。午前中の入浴を基本としているが、午後も可能である。利用者の希望を酌んで曜日や時間帯を変更し、個々に沿った入浴を支援している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	リビング内のソファーや居室にて休息したい、一人ひとりの状態に応じて安心して入眠できるよう支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個々にファイリングして随時確認できるようにしている。処方される薬に変更があった際には、連絡ノートに記載し、職員間で情報共有をしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	気分転換ができるように地域のイベントに参加している。嗜好品が継続できるように支援している。		

ふれあいの里グループホームわっかない絆

自己評価	外部評価	項目	自己評価(ユニット雅)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	出来る範囲で希望時に理容室や買い物外出に行けるよう支援している。	稚内公園や近隣の寺院へ花見に出かけている。地域のお祭りの見学や、かかりつけ医へ受診の際ドライブを兼ねるなど強風の日でも外の景色を楽しめる工夫をしている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	本人が希望し、家族の了承を得られる場合には、少額ながらも所持できるよう支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	個々の力に応じて電話の代行や手紙のやり取りが出来るよう支援している。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居者が不快と感じる音を出さないよう配慮して環境設定をしている。	事業所がビルの3階にあるため、窓から海を見渡すことができる。季節に応じて毎月職員と一緒に手作りする装飾物が壁に飾り付けられている。加湿空気清浄機やエアコンが設置されており、利用者が快適に生活できる空間が作られている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共有空間においては一人になれる空間設定は無いが、ソファを配置して気の合う入居者同士がゆっくり過ごせるよう支援している。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には、本人の使い慣れた家具などを配置し、本人や家族と相談を行いながら、心地よく生活できる取り組みを行っている。	暖房、照明器具、カーテンが備え付けられている。タンスや衣装ケースなど本人の使い慣れた家具やテレビ、冷蔵庫などを持ち込む方もいる。家族の写真を飾るなど、過ごしやすく温かみのある空間が作られている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレや洗面所は全面バリアフリーとなっており、車いすでも使用できる。必要な箇所に手すりを配置している。		

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	019670012		
法人名	日総ふれあいケアサービス株式会社		
事業所名	ふれあいの里グループホームわっかない絆 ユニット煌		
所在地	稚内市中央3丁目6番1号		
自己評価作成日	令和2年6月26日	評価結果市町村受理日	令和2年7月14日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/01/index.php?action_kouhyou_detail_022_kani=true&JigvsoyCd=0196700124-00&ServiceCd=320&Type=search
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 サンシャイン		
所在地	札幌市中央区北5条西6丁目第2道通ビル9F		
訪問調査日	令和2年7月6日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

稚内駅ビルにあり、同法人のサービス付き高齢者向け住宅が併設されており、連携を図って運営している。
公共交通機関の利用がしやすい立地状況であり、ご家族や知人なども訪問しやすく外出しやすい環境である。
馴染みの理容室や買い物外出を楽しみにされている入居者様も多くおり、地域や社会との繋がりを継続できるよう支援している。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価(ユニット煌)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	職員と共に考えた理念がある。理念カードを携帯して業務にあたっている。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域のお祭りやイベントに参加している。お祭りについて使用する千羽鶴を作成して屋外に展示してもらっている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	認知症カフェの場を提供している。認知症ケア専門士を配置し、認知症ケアの理解を深めている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議にて地域で考えられる防災について検討している。		
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	地域ケア会議や研修等に参加して地域包括支援センターや市の担当者との協力体制を築いている。		
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	3要件に該当しない限りは身体拘束を行うわないことを家族に説明し、身体拘束を行わないケアを実践している。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止に係る資料を用いて研修会を開催している。また、日常的に業務内でも職員が互いに注意し合える環境をつくっている。		

ふれあいの里グループホームわっかない絆

自己評価	外部評価	項目	自己評価(ユニット煌)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	職員の理解は薄いですが、学ぶ機会を欲しているため今後学ぶ機会を設定する。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居の際の不安や疑問を確認し、ご理解いただけるよう丁寧な説明や対応を行っている。また、面会時や電話相談などを随時実施している。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関に意見箱を設置して、日頃よりご意見を頂戴できる体制を整えている。		
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員会議等で毎月のイベント開催など職員の意見を反映させた取り組みを実施している。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	定期的に管理者会議を開催し、労働時間の適正化や職場環境整備を実施している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	年間計画を立て、研修の機会を確保するなど努めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	他のGHとの研修会に参加している。また、地域ケア会議に参加し、ネットワーク作りを行っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価(ユニット煌)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居者が安心して生活できるように不安などの要望が無いが随時傾聴を行い、ケアプランに反映させている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	本人も含め家族が不安なこと要望などをうかがいながら関係づくりを行っている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居前に本人、家族が求めているサービスを見極められるように努めている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	可能な限りご本人の力を活用し、自立支援を行っている。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時や電話連絡にて近況報告している。また、月一回定期的にお便りを発送している。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	大切な人に会いに行ったり、なじみの美容室に通うなど関係性が途切れないよう支援している。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	リビングで生活している際は、孤立しないように職員が寄り添い対応している。		

ふれあいの里グループホームわっかない絆

自己評価	外部評価	項目	自己評価(ユニット煌)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス契約が終了しても本人や家族との関係性が途切れないように必要に応じて対応をするよう努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人、家族にも意向を聞き取り入れて情報の把握に努めている。 直接表現できない入居者は、表情等を読み取り対応できるよう配慮している。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人、家族にも意向を聞き取り、関係機関とも連携を図りながら対応している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	介護記録などを活用して職員間で情報共有を行うと共に通院時の状況や本人との会話などから状況把握を行っている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	月に1度のユニット会議を実施している。よりよく過ごしていただける取り組みなどを検討し、実行している。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護計画と連動した介護記録を作成し職員間で情報共有している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	出来る範囲で本人や家族などからニーズを吸い上げ対応できるよう心掛けている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	本人や家族、関係機関からの情報を基に入居者を支える地域資源を把握するよう努めている。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	受診対応先について、本人や家族からの希望を考慮し、入居前からのかかりつけ医を継続している。		

ふれあいの里グループホームわっかない絆

自己評価	外部評価	項目	自己評価(ユニット煌)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	同法人施設が同建物内にあり、定期的かつ随時連携を図り対応できる体制を整えている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院の際には病院関係者と情報共有を行っている。医師から家族への説明の際は、家族了解のもと同席している。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化に向けて家族と話し合いが行われているが、終末期における対応や職員の技術習得など課題が残されている。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	実践力を十分に身につけているとは言えない。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期的に避難訓練を実施している。		

IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとりの人格を尊重して本人にあった言葉かけや対応を行っている。また、研修会を定期的の実施し、日頃のケアを振り返っている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人に想いや希望を聞き取り尊重できるよう取り組んでいる。直接的に表現ができない入居者からは、普段の仕草や会話などから読み取れるよう対応している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりのペースに合わせて支援しているが、職員側のペースになってしまう場合もある。職員間で状況の交換を行い、入居者の希望に即した支援が可能になるよう努めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	行きつけの理容室や訪問美容を利用している。また、化粧ができるなど身だしなみに注意を払っている。		

ふれあいの里グループホームわっかない絆

自己評価	外部評価	項目	自己評価(ユニット煌)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	下拵えや準備など入居者が行えることを共に実施している。行事等では、季節感が感じられるメニューなどにして楽しめる工夫を行っている。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量や水分量を記録し、把握している。また、記録を活用し、必要量を摂取できるよう対応している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後や起床時に一人ひとりの力に応じて口腔ケアを実施している。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	極カトイレを活用して排せつできるよう支援している。尿意や便意を認識できない方へは定期的に言葉がけを行い、トイレ誘導している。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排せつ確認や水分量の把握を行い、飲食物の工夫や運動への個々の働きかけを行っている。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	一応の曜日を決めているが、本人の希望等に即して柔軟に対応している。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	リビング内のソファーや居室にて休息したい、一人ひとりの状態に応じて安心して入眠できるよう支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個々にファイリングして随時確認できるようにしている。処方される薬に変更があった際には、連絡ノートに記載し、職員間で情報共有をしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	気分転換ができるように地域のイベントに参加している。嗜好品が継続できるように支援している。		

ふれあいの里グループホームわっかない絆

自己評価	外部評価	項目	自己評価(ユニット煌)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	出来る範囲で希望時に理容室や買い物外出に行けるよう支援している。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	本人が希望し、家族の了承を得られる場合には、少額ながらも所持できるよう支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	個々の力に応じて電話の代行や手紙のやり取りが出来るよう支援している。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居者が不快と感じる音を出さないよう配慮して環境設定をしている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共有空間においては一人になれる空間設定は無いが、ソファを配置して気の合う入居者同士がゆっくり過ごせるよう支援している。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には、本人の使い慣れた家具などを配置し、本人や家族と相談を行いながら、心地よく生活できる取り組みを行っている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレや洗面所は全面バリアフリーとなっており、車いすでも使用できる。必要な箇所に手すりを配置している。		

目標達成計画

事業所名 ふれあいの里グループホームわっかない絆

作成日：令和 2年 7月 14日

市町村受理日：令和 2年 7月 14日

【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	4	議事録を作成し送付しているが内容が具体的に記載	行事や状況報告を具体的に記載し、議事録を充実させる。	会議で挙げた意見等も記載し、参加できなかったご家族にもわかり易い議事録の作成。	2年間
2	23	B-3シートを活用した入居者の希望や意向の把握	B-3シートを活用し、見直していく。	職員全員が都度追記できるようにする。	2年間
3	35	計画的な災害対応の整備	マニュアルの整備。 災害時の個別対応。	災害対策マニュアルをわかりやすく整備していく。 個別の対応を精査していく。	2年間
4					
5					

注1)項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入して下さい。

注2)項目数が足りない場合は、行を追加して下さい。